

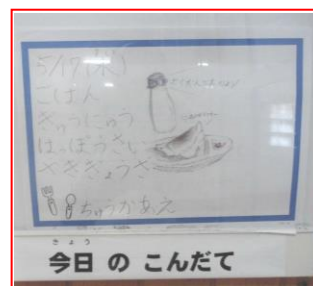
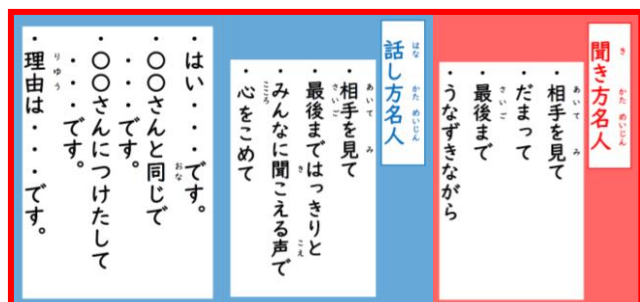
子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第11号（令和5年5月26日）

関わり合い②

聞き方名人、あなたは “聞く”？“聴く”？



5/17の献立表
5年 さんが作って
くれました。とてもリアルで
上手にギョウザや牛乳びん
を描いていました。
思わず、写真を撮りました。

各教室に【ききかた（聞き方）名人】【はなしかた（話し方名人）】が掲示してありますね。まずは“きく”について…みなさんは“聞く”を使う方が多いと思います。【聞き方名人】でも

“聞く”を使っていますが、一歩進んで“聴く”という気持ちで話をきいて欲しいです。それは以下の理由からです。

- “聞く”は、物音や声等、自然に耳に入ってきている状態です。要するに“聞く”とは【聞こえている状態】です。
- “聴く”は、漢字の中に“耳”“目”“心”が入っていることから、積極的に注意深く聴こうとしている状態です。要するに“聴く”とは【聴こうと思って聴いている状態】です。

例えば

○音楽を  **聞く**…BGMとして流れている音楽が耳に入ってくる
聴く…音や楽曲の特徴に注意したり、味わったりして鑑賞する

○先生の話  **聞く**…「先生が何か話しているなあ」
聴く…「先生が話していることをしっかり聴こう」
(どんな内容？ポイントは？分からないところは？等)

きき方として、どちらが自分のためになるでしょうか？

したがってみなさんには、相手の話を

“聞く”から“聴く”になって欲しい

インターネットで調べると、「コミュニケーションのポイントは“聴く”ことである」とか「“話す”より“聴く”方が大切」などが書いてあります。

“聴く”ことがうまくなるとこんな良いことがあるそうです。

相手の話に耳を傾ければ傾けるほど好かれる

(真剣に聴く姿勢は話し手も嬉しいでしょう)

相手の話に耳を傾ければ傾けるほど賢くなる

(聞き方名人に書いてあることすれば、内容やポイントが分かるようになります)

相手の話に耳を傾ければ傾けるほど会話がうまくなる

(内容やポイントがわかると、テーマに沿った会話が出来ますね)

続いて、話し方名人、あなたはどの“話す”？…こんな話があります。

“喋る” “話す” “語る”

みなさん、毎週1時間、【道徳】の授業がありますね。（正式には【特別の教科 道徳】と言います）以前は【道徳】でしたが、内容ややり方が変わったり、評価することが加わったりという【特別の教科 道徳】が小学校では平成30年度に全面実施となりました。

今から7年ほど前、当時、私はある中学校の教頭でした。私は「【特別の教科 道徳】って、今の【道徳】と比べて、どのように変わるのだろうか？少しは勉強しておかないと…」と思っていました。たまたま学校に届いていた香川大学での勉強会の案内に興味をもち、休みの日に何度かその会に参加しました。学校の先生になることを目指している大学生、小学校や中学校で実際に子どもたちに授業をしている先生方、私のように道徳の授業をもうしていない人、大学の先生、教育委員会・教育機関の方など、様々な立場の人が毎回100名以上、参加して勉強していました。（岡山県からの参加は10名ほどだったと思います）

その最終回、東京にある文部科学省から【道徳】や【特別の教科 道徳】の内容や指導方法などを長年、検討してこられた方々が何人もおいでになっていて、その方々による座談会がありました。事前に「こんなメンバーで座談会を行うことは、もう二度とない。それくらい貴重な機会だ」と言われ、当日はボイスレコーダーを机の上に置いて、聴きました。

（行っているところが香川県なので、家まではかなり時間がかかります。だから「車の中で録音を聴きながら帰ろう」としましたが、ザーザーという雑音ばかりで声が全く聞こえず、振り返りや復習ができず、残念でした。）

話を戻すと…その座談会（約2時間）の中で、私が一番印象に残ったのは「特別の教科 道徳の時間に語り合ってほしい」という言葉でした。続いて、こんなことを言われました。（一部、私の意見も入っています）

【言う】という表現はいくつもあり、代表的なものは“喋（しゃべ）る” “話す” “語る”です。

- “喋る”は、口（くち）へんに葉（よう）と書きます。葉は葉っぱのことで「薄い」という意味です。要するに“喋る”とは【内容の薄いことをペラペラと言う】です。また薄いのでいろいろな話題にとんでいくのも特徴です。
- “話す”は、言（ごん）べんに舌（した）と書きます。要するに“話す”とは【舌で言う…言葉を声に出して相手に伝える】です。舌先三寸（意味…心がこもらず、口先だけの言葉）ということわざもあるように、「深く考えずに言う」という意味もあります。
- “語る”は、言（ごん）べんに吾（われ）と書きます。吾は自分のことです。要するに“語る”とは【自分のことを言う…自分の気持ちや感じたことを理由をつけて言う】です。インターネットで調べると、【論理・順序立てて言う】という意味もあります。

みなさんは、周りの人と会話をする中で、“喋る” “話す” “語る”のどれも経験があるでしょうし、どれもあって当たり前です。また「そんな区別して使っていない」という人が多いでしょう。ただ相手に自分の考えや気持ちを分かってもらおうとしたら「〇〇です。理由は△△だからです。」という“語る”にあたる言い方（【話し方名人】）が伝わりやすいと思います。

相手に伝わりやすい“語り”の型

1. 結論・要点を伝える
（私は〇〇と考えます）
2. 理由を伝える
（理由は～だからです）
3. 具体例を伝える
（例えば、～ことがあります）
4. 改めて結論・要点を伝える
（だから私は〇〇と考えます）

“喋る” “話す” “語る”について、座談会の中で「大人がする食事会」に例えられていました。最初は「今日は良い天気ですね」などを“喋り”、共通の話題を見つけて、雑談程度の“話す”を行う。“語り”が始まるのは、食事会が始まって1時間後くらいから。数名で輪を作って、自分の考えや気持ちなど、自分のことを伝え合いながら、深い話をするようになっていく…そうです。私自身もそう思いますし、お家の人は共感してくれるでしょう。

【聞き方名人】【話し方名人】の姿勢をしっかりと身に付けて、“聞く”を聴く”、“話す”を“語る”という気持ちで、【関わり合い】をしていきましょう。